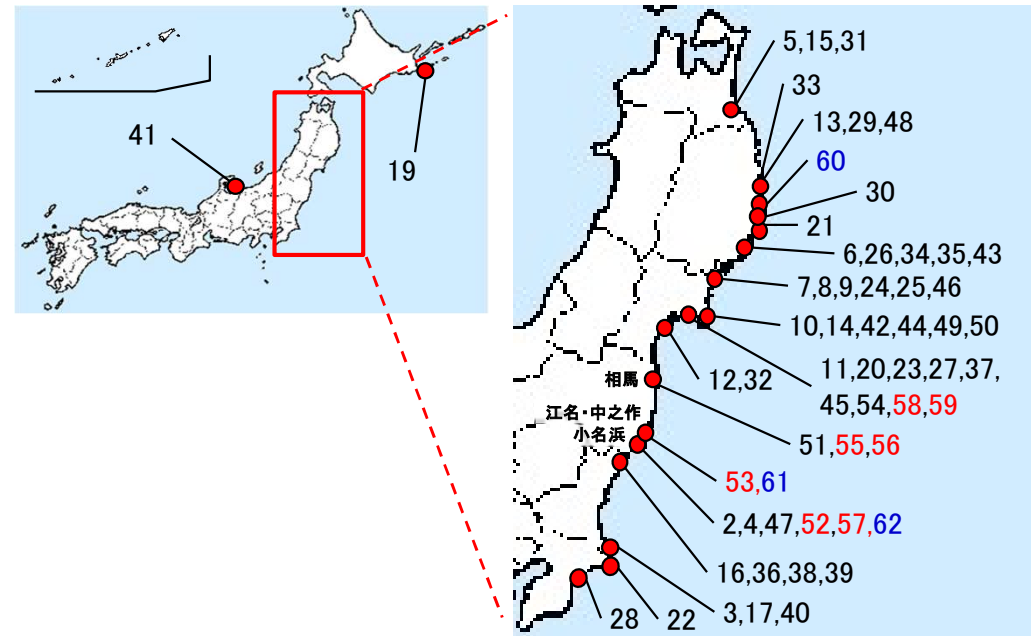


地域漁業復興プロジェクト進捗状況

(令和6年6月6日現在)

【実施中・実施予定の計画】

- 52 福島県・小名浜(大中まき)：小名浜水揚量の回復、共同運搬、高鮮度保持・高機動運搬船導入、水産物の安全確保等【R2.11～新船型】
- 53 福島県・江名・中之作(さんま棒受網)：小名浜水揚量の回復、同一型船による省コスト、水産物の安全確保等【R3.8～新船型、既存船型】
- 55 福島県・相馬双葉(小型)：97隻順次操業による計画的な水揚量拡大と販路の拡大、生産基盤の安定的な確保等【R5.1～生産回復型】
- 56 福島県・相馬②(沖底)：23隻一体による更なる水揚量回復、ICT導入による資源管理高度化、宮城との相互入会等【R5.9～生産回復型】
- 57 福島県・いわき(沖底・小底)：18隻一体による更なる水揚量回復、ICT導入による資源管理高度化、安全性向上と担い手確保等【R5.9～生産回復型】
- 58 宮城県沖底(沖底)：12隻一体による福島との相互入会、福島及び地元水産業復興への貢献【R5.9～生産回復型】
- 59 宮城県近底(沖底)：7隻による福島との相互入会(他6隻も協力)、福島及び地元水産業復興への貢献【R5.9～生産回復型】
- 60 唐丹町(大型定置)：漁具の新調及び定置網構造の改造による不漁対策、魚種転換、高付加価値化、衛生管理体制維持等【既存船型】
- 61 福島県・江名・中之作②(さんま棒受網)：小名浜水揚量の回復、AI活用、船上凍結サンマの流通拡大【既存船型】
- 62 福島県・小名浜②(大中まき)：船団スリム化、共同運搬体制の確立、小名浜港への水揚体制の構築【新船型】



【事業を終了した計画】

- 1 北部太平洋海区大中型まき網漁業復興計画：(大中型まき網)【全体計画】
- 2 北まき・小名浜①(大中まき)：船団縮小(2ヶ統8隻→2ヶ統4隻)、漁獲物の高鮮度保持等【H24.6～H27.5 新船型】
- 3 北まき・波崎②、③(大中まき)：船団縮小(4隻→3隻)、生産コストの削減等【②：H24.4～H25.3 新船型、③：H24.2～H27.2 新船型※】
- 4 北まき・小名浜②(大中まき)：船団縮小(4隻→3隻)、コンテナバックの導入等【H24.6～H27.5 新船型】
- 5 八戸(大中まき)：船団縮小(4隻→3隻)、船凍品の開発等【H24.5～H26.4 新船型】
- 6 全さんま・大船渡(さんま棒受網)：コスト削減、高付加価値化等【H24.10～H26.9 新船型】
- 7 全さんま・気仙沼(さんま棒受網)：兼業型・改革型漁船の導入、フィッシュポンプの活用、高付加価値化等【H24.9～H27.8 新船型】
- 8 気仙沼(近海まぐろ延縄①)：集団操業、水揚量の均衡化、ベア操業による省エネ等【H24.4～H27.4 既存船型】
- 9 遠洋まぐろ延縄・気仙沼：船上ロイン加工、省エネ等【H24.5～H27.4 既存船型】
- 10 遠洋かつお一本釣り・女川②：一本釣りとまき網によるハイブリッド化等【H24.4～H27.3 新船型】
- 11 北まき・石巻(大中まき)：船団縮小(5隻→2隻)、省エネ・省コスト、高品質化等【H25.2～H28.1 新船型】
- 12 亘理(小底)：小底と敷網漁業との兼業化等【H25.1～H28.1 新船型】
- 13 宮古・釜石(沖底)：省エネ・省人・省力化、高鮮度出荷等【H24.7～H27.6 新船型】
- 14 遠洋まぐろ延縄・女川①：省エネ、低燃費操業、新たな拠点整備等【H25.1～H28.1 新船型】
- 15 八戸(遠洋底びき網)：欧州型漁船の導入、新漁場の利用等【H25.8～H28.8 新船型】
- 16 北まき・大津(大中まき)：船団縮小(3隻→2隻)、省エネ・省コスト等【H25.4～H28.4 新船型】
- 17 北まき・波崎④(大中まき)：船団縮小(4隻→3隻)、新型揚網機の導入等【H25.6～H28.6 新船型※】
- 18 全さんま棒受網漁業復興計画：(さんま棒受網)【全体計画】
- 19 全さんま・歯舞(さんま棒受網)：LED漁灯の導入による燃油消費量の削減、高付加価値化等【H25.8～H30.8 新船型】
- 20 宮城県沖底①(沖底)：グループ操業による漁場の有効利用及び付加価値向上等【H24.9～H27.8 既存船型】
- 21 新おつち(大型定置)：船団縮小、周年操業、氷倉を備えた網船の導入等【H24.9～H27.8 既存船型・新船型】
- 22 北まき・銚子(大中まき)：船団縮小(3隻→2隻)、小型鮮魚バックの導入等【H26.4～H29.3 新船型・既存船型】
- 23 遠洋かつお一本釣り・東・中日本：グループ操業、燃油消費量の削減、魚倉の設備改良等【H25.3～H28.4 既存船型】
- 24 遠洋かつお一本釣り・気仙沼②：S-1製品の製造、燃油消費量の削減等【H25.2～H28.2 既存船型】
- 25 全国遠洋まぐろ・気仙沼：年2航海操業、労働環境の改善、次世代型冷凍システムの導入等【H25.11～H28.11 新船型】
- 26 全さんま・大船渡②(さんま棒受網)：LED漁灯の導入、漁獲物の船上箱詰め等【H25.8～H28.8 新船型】
- 27 石巻底びき(沖底・小底)：低コスト操業と高付加価値化等【H25.2～H27.1 新船型】
- 28 千葉(中まき)：船団縮小(7隻→5隻)、船型の改革による省コスト化、コンテナバックの導入等【H26.4～H29.3 新船型】
- 29 宮古・釜石②(沖底)：省エネ型漁船、省人・省力化、高付加価値化等【H26.4～H29.3 新船型】
- 30 三陸やまだ(大型定置)：船団構成のスリム化によるコスト削減、高鮮度漁獲物の供給等【H25.4～H28.4 新船型】
- 31 八戸③(大中まき)：活魚、鮮魚、凍結魚の搬送可能な運搬船の導入等【H26.10～H29.9 新船型】
- 32 仙台湾(刺し網等)：マサハ刺し網から釣りへの転換、活魚出荷等【H25.10～H28.9 既存船型】
- 33 田野畑村(大型定置・小型定置)：網規模縮小によるコスト削減、定員削減等【H26.4～H29.3 新船型】
- 34 全さんま・大船渡③(さんま棒受網)：省エネ・省コスト漁船、船上箱詰め等【H26.8～H29.8 新船型】
- 35 全さんま・大船渡・綾里(さんま棒受網)：省エネ漁船、曳き網と延縄の兼業漁業、船上箱詰め等【H26.8～H29.8 新船型】

- 36 北まき・大津②(大中まき)：運搬機能付き網船導入、船団縮小(3隻→2隻)等【H27.5～H30.4 新船型※、H27.5～H30.4 新船型】
- 37 石巻底びき(小底(貝桁))：資源管理に配慮したグループ操業等【H26.9～H29.8 既存船型】
- 38 北まき・大津③(大中まき)：190トン型新型網船導入による船団縮小(3隻→2隻)、運搬船の共同利用等【H27.10～H30.9 新船型】
- 39 北まき・大津④(大中まき)：運搬機能付き網船導入による船団縮小(3隻→2隻)等【H28.1～H31.1 新船型】
- 40 北まき・波崎⑤(大中まき)：船団縮小による合理化、コスト削減等【H28.6～H31.5 新船型、H29.7～R2.6 新船型】
- 41 全さんま(大型)・富山(さんま棒受網)：同一船型の導入によるコスト削減、高付加価値化等【H28.8～R元.8 新船型】
- 42 全さんま(大型)・宮城(さんま棒受網)：同一船型の導入によるコスト削減、高付加価値化等【H28.8～R元.8 新船型】
- 43 全さんま(小型)・大船渡④(さんま棒受網)：同一船型の導入によるコスト削減、高付加価値化等【H28.8～R元.8 新船型】
- 44 全さんま(小型)・宮城(さんま棒受網)：同一船型の導入によるコスト削減、高付加価値化等【H29.3～R2.2 新船型】
- 45 宮城県沖底②(沖底)：新船・既存船グループ操業、高鮮度・高付加価値化等【H28.4～H31.3 既存船型、H29.2～R2.1 新船型】
- 46 気仙沼(近海まぐろ延縄②)：協業化、集団操業、省エネ運航、高鮮度化等【H28.4～H31.4 既存船型】
- 47 北まき・小名浜③(大中まき)：船団縮小(3隻→2隻)、冷海水及び氷水による鮮度保持、分散水揚げ等【H29.3～R2.2 新船型】
- 48 宮古・釜石(沖底③)：省エネ運航、高鮮度化等【H29.9～R2.8 新船型】
- 49 遠洋かつお・まぐろ(遠洋まぐろ延縄・女川③)：省エネ漁船、6次産業化、高鮮度化等【H29.4～R2.3 新船型】
- 50 全さんま(大型)・宮城②(さんま棒受網)：同一船型の導入によるコスト削減、高付加価値化等【H29.12～R2.3 新船型】
- 51 福島県・相馬(沖底)：23隻一体による水揚量回復、機動的資源管理、流通加工業者との連携、水産物の安全確保等【R2.9～R5.8 生産回復型】
- 54 宮城県沖底③(沖底)：12隻体制の構築、福島沖漁場の再開、新船導入による生産基盤向上等【R2.9～R5.8 新船型、既存船型】

※自己負担により実施

認定漁業復興計画 62件：実施中 7件、実施予定 3件、事業終了 52件

(注1) 赤字：実施中の計画、青数字：実施予定の計画、黒数字：終了した計画 (注2) 計画名は、復興プロジェクト名及び漁業種類の一部を省略して記載